

～今後の管理のポイント～

- 莖数を確保するために追肥を行いましょう。
- 莖立期前の麦踏みを行いましょう。
- 明きよ・暗きよの再点検を行いましょう。

## 1 気象経過

- 気温は12月中旬から1月中旬までは低温となりました。日照時間は10月6半旬と11月3半旬の多照、12月中旬と1月1半旬の少照以外は、概ね平年並で推移しました。
  - 降水量は10月6半旬から12月上旬まで少雨で推移しました。1月2半旬以降も少雨で推移しましたが2月中旬にはまとまった降雨がありました。
  - 12月15日から1月22日まで積雪深が記録され、長期の根雪となりました。
- 最高・最低気温(℃)

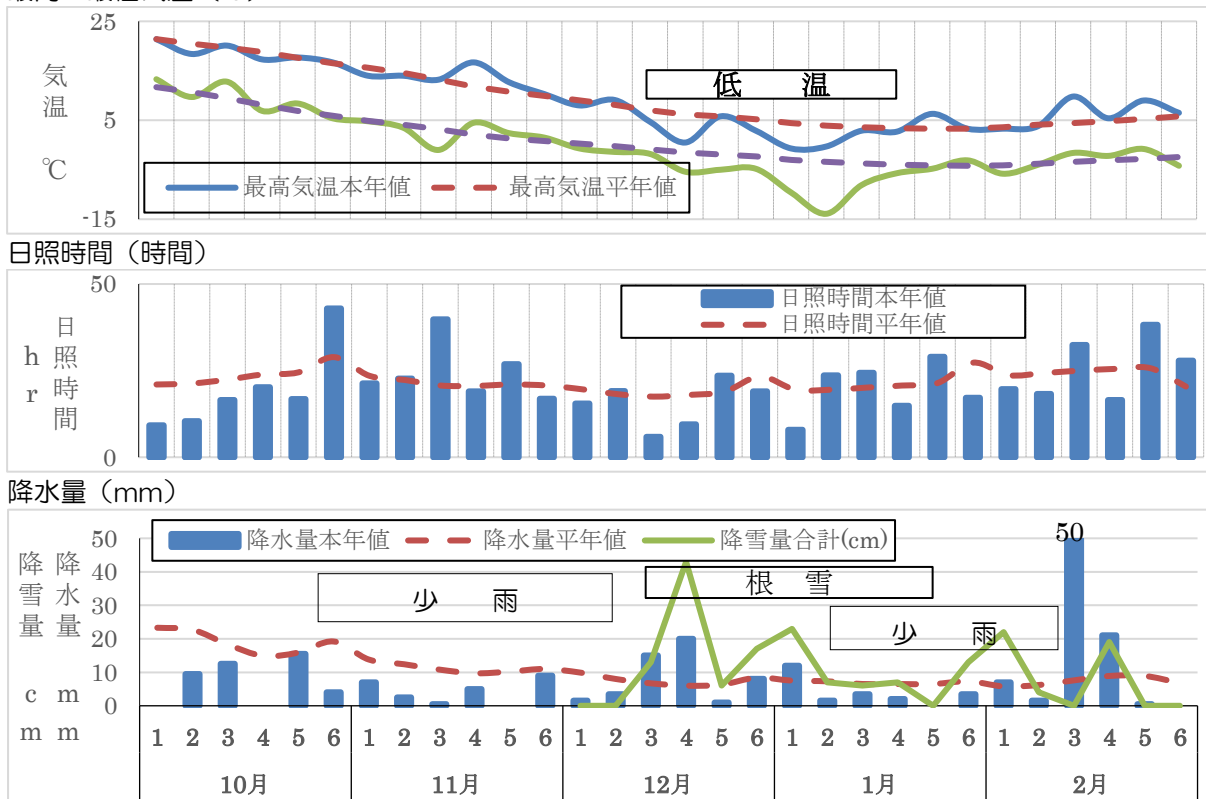


図1 気象経過(アメダス古川)  
 ※実線又は棒グラフが本年値, 点線は平年値

## 2 生育状況（2月22日現在）

- 播種は10月16日で平年より7日早く、台風の影響のあった前年より16日早くなりました。
- 出芽は良好で、12月15日現在の生育は茎数が少ないものの、草丈は平年並でした。その後、長期の根雪のため生育は停滞し、2月22日調査では草丈が9.5cm、茎数は455本/m<sup>2</sup>といずれも平年を下回りました。草丈は野鳥の食害により、前回調査より短くなりました。
- 幼穂長は0.20mm（平年差-0.08mm）と、調査日の差を勘案すると、わずかに短くなりました。

表1 生育調査ほの生育調査結果

地区名 品種名	調査日	播種日			草丈 (cm)			茎数 (本/m <sup>2</sup> )			幼穂長 (mm)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差
古川 シラネコムギ	12/15	10/16	-16	-7	126	109%	100%	312	115%	63%	-	-	-
	2/22	10/16	-16	-7	95	93%	88%	455	114%	61%	0.20	±0	-0.08

※平年差（比）は、過去5か年（平成28年～令和2年）の平均値との比較



写真1 生育調査ほの様子



写真2 野鳥による食害

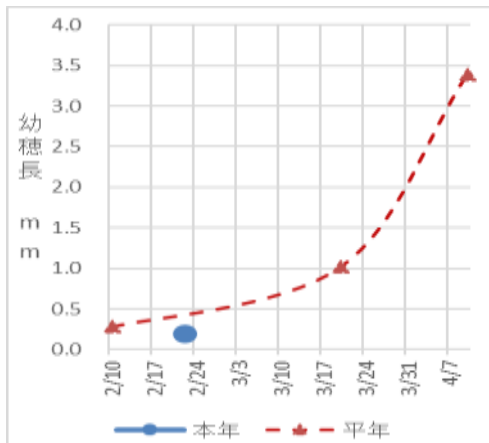


図2 生育調査ほにおける幼穂長の推移



写真3 幼穂の写真(2/22)

## 2 今後の管理

### (1) 追肥

茎数を確保するために追肥を行いましょう。

表2 追肥時期と施肥量の目安

追肥の種類	幼穂形成期 (幼穂長2~3mm)	減数分裂期 (幼穂長30mm)	穂揃期 (8~9割出穂)
追肥時期	3月下旬~4月中旬	4月下旬~5月上旬	5月中旬
N施肥量 (kg/10a)	2~2.5	4~5	2~2.5
硫安の場合 (kg/10a)	10~12	20~25	10~12
尿素の場合 (kg/10a)	4.5~5.5	9~11	4.5~5.5

※生育量が少ない・湿害等により葉色が薄い・鳥害が著しいと思われる場合、幼穂形成期前に株直し追肥を行いましょう（N施肥量の目安：1~2kg/10a）。

### (2) 麦踏み

穂揃いの均一化などのために麦踏みを行いましょう。

- 作業時期：越冬後の3月上・中旬（生育が再開する再生期以降）
- 生育状況：茎立ち前（主稈長2cm、幼穂長2mm程度）

#### 主な効果 ~メリットがたくさん!!~

- ・麦への効果  
徒長や茎の早立ちの防止、分けつの増加、分けつ相互の生育調整、霜柱・干害による被害の軽減、深根化、稈の強剛化、耐寒性・耐干性の強化
- ・土壌への効果  
強風による土移動の軽減と防止。

※生育量が足りない場合や、茎立期以降の麦踏み、又はほ場が湿っている状態での麦踏みは逆効果となりますので、麦の生育状況とほ場の状態に注意してください。

### (3) 排水対策

麦は湿害に弱いです。急な降雨により湿害が発生する恐れがありますので、明きよと暗きよの確認を行いましょう。

- ・明きよ…手直し、管理機等で溝を作りましょう。
- ・暗きよ…栓が閉じられていないか再確認しましょう。

## 東北地方 1 か月予報

(2月27日から3月26日までの天候見通し)

令和3年2月25日

仙台管区气象台 発表※抜粋

### <予想される向こう1か月の天候>

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は高い確率60%です。週別の気温は、1週目は平年並みの確率50%、2週目は高い確率70%、3~4週目は高い確率60%です。

### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北地方	10	30	60
【降水量】	東北太平洋側	30	30	40
【日照時間】	東北太平洋側	40	30	30

### <気象経過の各階級の確率(%)>

		低い	平年並	高い
1週目	東北地方	20	50	30
2週目	東北地方	10	20	70
3~4週目	東北地方	20	30	50